

1 計画策定の背景と目的

西東京市教育委員会は、平成 31 年 3 月に西東京市教育計画（平成 31（2019）年度～2023 年度）を策定し、教育施策の推進に取り組んできました。

学校教育では、「超スマート社会（Society 5.0）」の到来を背景に、全ての子どもたちが自ら未来を切り拓いていくために、知識や情報、技術を活用する力、人間関係を形成する力、自立的に行動する力など、これからの社会を生き抜くために必要な基礎となる能力の育成が求められています。

社会教育では、何歳からでも学び直しができること、地域とのつながりを持ち活躍できる場所があることが重要であり、人生 100 年時代を見据えた生涯学習の仕組みづくりが求められています。

さらに、持続可能な開発目標（SDGs）をはじめとした国際的な取組も広がり、国は平成 28 年 5 月に「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」を策定し、持続可能で強靱な、誰一人取り残さない社会の実現に向けた取組を推進しています。

このような流れの中、西東京市教育委員会においては、平成 31 年に策定した西東京市教育計画について、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条に基づき毎年度実施している、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検・評価や令和 4 年度に実施したアンケート調査、ヒアリング調査などを活用して、令和 6 年度から 10 年度までの 5 年間の計画期間とした新たな教育計画（以下、「本計画」と表記します。）を策定します。

2 国・東京都の動向・方向性との整合

(1) 第4期教育振興基本計画（国）

現代は将来の予測が困難な時代であり、その特徴である変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の頭文字※を取って「VUCA」の時代とも言われています。将来の予測が困難な時代において、一人一人の豊かで幸せな人生と社会の持続的な発展を実現するために、教育の果たす役割はますます大きくなっています。新たな教育振興基本計画では、今後の教育政策に関する基本的な方針として、①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成、②誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進、③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進、④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）※の推進、⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話が示されました。（令和5年6月16日閣議決定）

※Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）

※デジタルトランスフォーメーション（DX）：IT（情報技術）を有効かつ継続的に活用することで、企業の業務のあり方から組織・文化・風土までを変革し、それによって企業が新たな価値を創出し、社会や人々の生活を向上させるという考え方、又はそうした取組のこと。

(2) 東京都教育ビジョン（東京都）

東京都は、教育ビジョンにおいて、学校、家庭、地域、社会が連携して、「誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って自ら伸び、育つ教育」を推進することにより、「未来の東京に生きる子供の姿」の実現を目指しています。具体的には、自ら未来を切り拓く力の育成、誰一人取り残さないきめ細かな教育の充実、子供たちの学びを支える教職員・学校の力の強化を3本の柱として設定し、特に、教育のインクルージョンの推進、困難を抱える子供へのサポートの充実等の内容を強化しています。

(3) 東京都教育施策大綱（東京都）

令和3年3月に、今後の東京の教育施策の基本的な方針を示す、新たな「東京都教育施策大綱」が策定されました。これまでの「東京都教育施策大綱～東京の輝く未来を創造する教育の実現に向けて～」の考え方や様々な取組による改革の流れを受け継ぎながら、いま直面している危機を乗り越え、明るい未来を切り拓くため、新しい時代の教育を目指しています。

*教育に関する国・東京都の制度や計画の動向等については、上記以外に各種ありますが、本計画策定で計画の根本や基本的な部分として整合を図るべき計画等を掲載しました。

3 計画の期間

(1) 計画の期間

計画の期間は、令和6年度から10年度までの5年間とします。

(2) 計画の性格

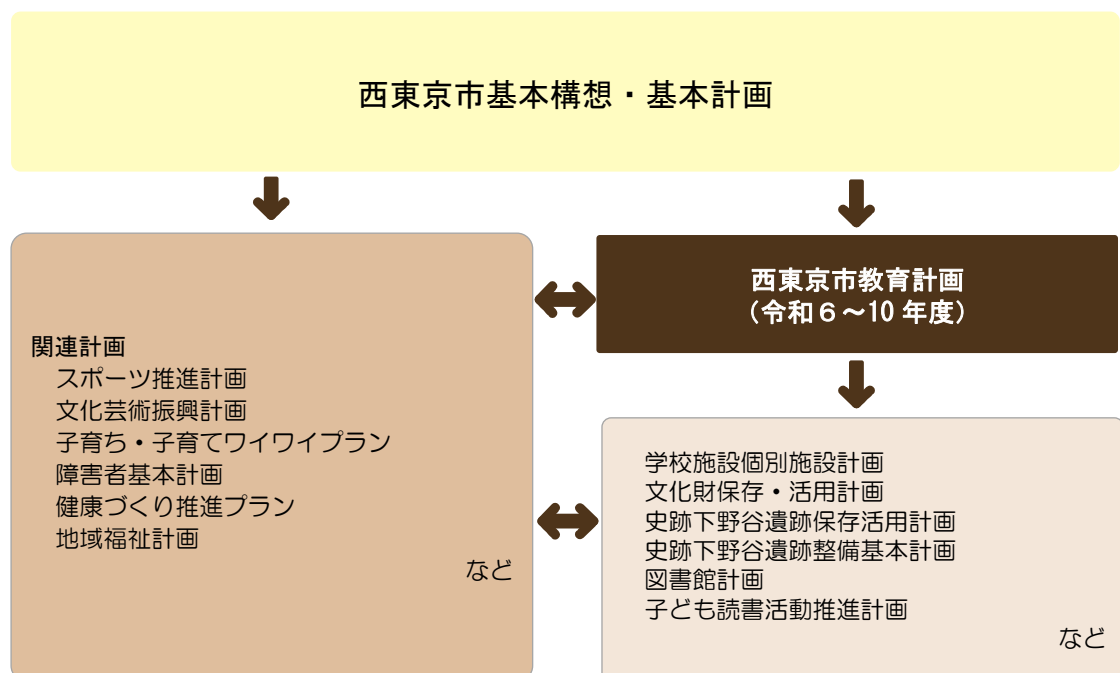
本計画は、「教育基本法」第17条第2項に規定する「当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として位置付けるものであり、本市において、令和6年度からの5年間を中心に取り組むべき基本的な方向性と主な施策を示すものです。

また、本計画は、国や東京都の動向、本市を取り巻く社会状況の変化を踏まえ、さらに、平成31(2019)年度から2023年度までを期間とする教育計画の内容について、一定の成果が得られた取組事業について整理し、今後の本市における教育全体の向上及び活性化を目指すものです。

(3) 他計画との関係

本計画は、西東京市基本構想・基本計画に基づき、スポーツ推進計画、文化芸術振興計画、子育て・子育てワイワイプランなどの関連計画とも整合を図りながら施策を推進するものです。

計画の位置付け



4 計画の策定体制

(1) 西東京市教育計画策定懇談会開催の経過

開催日	回数	主な検討内容等
令和4年 7月15日	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・西東京市教育計画策定の趣旨等について ・西東京市教育計画策定のスケジュール ・教育行政に関する国及び東京都、西東京市の動向
令和4年 8月26日	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・計画策定における市民意識調査（アンケート調査）の調査項目について ・計画策定におけるヒアリング調査の実施について
令和4年 10月20日	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・西東京市の教育について（点検評価報告書による取組の報告） ・計画策定におけるヒアリング調査の実施について ・計画策定におけるワークショップの実施について
令和5年 1月23日	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・計画策定におけるアンケートの単純集計（速報）について ・計画策定におけるヒアリング調査の実施状況（中間）について ・次期西東京市教育計画に向けた重点項目について
令和5年 2月13日	第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・西東京市教育計画（令和6～10年度）の体系・骨子（案）について
令和5年 5月12日	第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・各種調査等実施報告について ・次期教育計画の体系・骨子（案）について
令和5年 6月23日	第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・次期教育計画の体系について
令和5年 7月24日	第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・次期教育計画の体系について ・次期教育計画素案（第1章～第3章）について
令和5年 8月25日	第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・次期教育計画の想定される施策と取組事業について
令和5年 10月10日	第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・次期教育計画素案について ・パブリックコメントについて
令和6年 1月29日	第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントに係る報告について ・次期教育計画案について

(2) アンケート調査結果の概要

① 調査の目的

計画策定の基礎資料として活用するため、市民の教育に関する考えや意見を聞くアンケート調査（本計画では、「アンケート調査」と表記します。）を実施しました。調査結果の詳細は「西東京市教育計画策定のためのアンケート調査報告書」としてまとめています。

② 調査対象

- 小学生調査：全市立小学校の4年生及び6年生（各学年1クラス）
- 中学生調査：全市立中学校の2年生（学校規模に応じて3～4クラス）
- 青少年調査：市内にお住まいの平成14年9月3日～平成19年4月1日生まれの方
- 一般市民調査：市内にお住まいの20歳以上の方
- 教員調査：市立学校に勤務する教職員

③ 調査期間

令和4年11月4日（金）から22日（火）まで

※なお、教員調査のみ、令和4年12月12日（月）から令和5年1月11日（水）まで実施

④ 調査方法

- 小学生・中学生調査：学校を通じて一斉配布・一斉回収
- 青少年・一般市民調査：郵送配付・郵送回収及びインターネット回答
- 教員調査：学校を通じて配布・回収及びインターネット回答

⑤ 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率	回収数
小学生調査	1,214通	1,168通	96.2%	1,169通
中学生調査	1,130通	1,021通	90.4%	1,021通
青少年調査	400通	104通	26.0%	1,314通
一般市民調査	3,000通	1,209通	40.3%	
教員調査	812通	639通	78.7%	639通

⑥ 主な調査結果 ※【 】内は、平成 29 年に実施した調査結果との比較

1 小学生・中学生調査

- ・ 学校を楽しいと思う割合は、小学生、中学生ともに約9割となっている。【小学生 3.8 ポイント減少、中学生 1.0 ポイント増加】
- ・ 学年が上がるにつれ、運動することが好きな割合が減少し、中学生では運動が好きではない生徒が約4人に1人となっている。【小学生 2.9 ポイント減少、中学生 1.9 ポイント減少】
- ・ 1ヶ月平均の本を読む量は、中学生の方が「0冊」の割合が高く、前回調査と比較して増加。【中学生 3.3 ポイント増加】
- ・ いやなことやつらいことがあったときに相談できる人がいる割合は、学年が高くなるにつれて高くなり、中学生では約9割であるが、小学生では減少。【小学生 3.3 ポイント減少】
- ・ 自分に自信のもてるところが「ある」と回答する割合は、学年が上がるにつれて減少し、中学生では自分に自信のもてるところが「ない」生徒が2割半ばを占めている。【「ある」と答えた割合：小学生 4.3 ポイント減少、中学生 4.6 ポイント増加】
- ・ 小学生、中学生ともに約2割は登下校時に何らかの危険な思いをしたことがあると回答している。【小学生 2.1 ポイント増加、中学生 0.4 ポイント増加】
- ・ タブレットを使った授業で良かったことは、小学生、中学生ともに「自分の興味や関心のあることを調べたり、学んだりする機会が増えた」が6割を超えている。
- ・ 小学生で地域の大人が自分たちを見守ってくれていると「感じる」割合は減少している。【小学生 2.8 ポイント減少】

2 青少年・一般市民調査

- ・ 生涯学習のイメージとして、生活を楽しむこと、趣味や教養を高めること、生きがいを充実させることが挙げられる。
- ・ 青少年、一般市民ともに、生涯学習が必要だと感じる割合は9割以上となっている。
- ・ 生涯学習を行うにあたって困っている点として、青少年では忙しくて時間がないことや費用がかかることが多い。一般市民では費用がかかることが最も多い。
- ・ 開催されている講座や施設がわからないという意見が増加している。【青少年 2.8 ポイント増加、一般市民 6.1 ポイント増加】

- ・ リカレント教育等の今後の学習活動について、青少年は今後学習してみたい、一般市民は学びたいが環境が整備されていないという意見が多い。
- ・ 気軽に学習に取り組める雰囲気をつくることが大切である。
- ・ 図書館の利用が減少し、利用したことがない割合が5割以上となっている。図書館サービスの認知度も低い。【利用について：青少年13.9ポイント減少、一般市民9.4ポイント減少】

3 教員調査

- ・ 今後、西東京市の公立学校教育で特に重点をおいて取り組む必要があるものとして「少人数学級」「老朽校舎の建替えや改修」「一人ひとりに応じた特別支援教育の充実」の割合が高くなっている。
- ・ 学校教育で子どもに教えることとして、重要だと思うこととして「自ら学び、考え、主体的に行動する力」の割合が最も高くなっている。
- ・ 教員が負担感を感じている業務として「調査・報告書作成」の割合が最も高く、多忙を解消するために必要なこととして「調査や事務関係の書類の提出を少なくする」「会議や研究会の効率化・スリム化を図る」の割合が高くなっている。

アンケート調査結果からみられる課題

- 学校を楽しいと思う気持ちについて、小学生で減少しています。学校を楽しいと思う気持ちから、学習意欲が生まれることから、これまで以上に体験活動の充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」を実現することが必要です。
- 学年が上がるにつれ、運動することが好きな割合が減少しています。運動能力が高まるように、学校体育の授業の内容の充実を図るとともに、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができる場所や機会の確保も求められています。
- 中学生の読書離れが特に進んでいます。豊かな感性や想像力を身に付けることができるよう、子どもたちが本とふれあう環境を整え、自主的な読書活動につなげていくことが必要です。
- いやなことやつらいことがあったときに相談できる子どもの割合が、小学生で減少しています。問題を抱える児童・生徒が置かれた環境への適切な働きかけを行い、より支援を受けやすい環境づくりを進めていくことが必要です。
- 小学生の自己肯定感が減少し、課題がみられます。一人ひとりの児童・生徒が自分の良さや可能性を認識して自信をもって成長し、豊かな人生を切り拓くためにも、自尊感情や自己肯定感を向上させることが必要です。

- 小学生、中学生ともに登下校時に危険な思いをしたことがあるが増加しています。これまで以上に、子どもの登下校や放課後における安全確保を図るため、学校・地域が連携・協力して、子どもの見守り体制を構築していくことが必要です。
- 小学生、中学生ともにタブレットを使った授業で、自分の興味や関心のあることを調べたり、学んだりする機会が増えたと6割以上の子どもたちが回答しています。引き続き、ICT環境の整備を進め、情報活用能力とともに、情報モラル、情報リテラシーを育成することが必要です。
- 青少年、一般市民ともに、生涯学習が必要だと9割以上の方が感じています。誰もが、いつでも、生涯を通じて自らの人生を設計し、活躍することができるよう、社会の変化に応じた学習機会の充実が必要です。
- 生涯学習を行うにあたって困っていることとして、忙しくて時間がないことが挙げられています。オンラインを活用した講座やデジタル化された資料の活用など、時間や場所にとらわれない学びを推進していくことが必要です。
- リカレント教育等の今後の学習活動について、青少年は今後学習してみたい、一般市民は学びたいが環境が整備されていないと回答しています。人生100年時代を見据えたりカレント教育（学び直し）の推進に向け、図書館において、より専門的な学びにつなげるための学習機会や情報提供を行うなど、市民のキャリア形成に資する取組を進めていくことが必要です。
- 図書館の利用の減少や図書館サービスの認知度も低くなっています。図書館事業については、若い世代に対して、紙媒体での情報提供だけでなく、インターネットなどを活用していくことが求められています。
- 教員調査において、公立学校教育では、主体的な学びを実現することが重要という意見が多くなっています。また、今日の多様化・高度化する学校教育への要請に応えるために、安全・安心に配慮した教育施設を整備する必要があります。あわせて教員の負担を軽減する取組を強化していくことが必要です。

(3) ヒアリング調査結果の概要

① 調査の目的

アンケート調査の結果を踏まえ、本市における教育の現状と課題を把握するために、市内の教育関連施設・団体に対してヒアリング調査を実施しました。調査結果の詳細は「西東京市教育計画策定のためのヒアリング調査報告書」としてまとめています。

② 調査対象

令和4年12月から令和5年3月にかけて、以下の施設・団体を対象に実施しました。なお、調査の実施に当たっては、事前にヒアリングシートの記入を依頼し、必要に応じて内容の聞き取りを行いました。

施設・団体名	対象	方法
1 社会教育に関する施設・団体		
(1) 公民館	利用者	ヒアリング当日に活動している団体に対して対面による聞き取りを実施。
(2) 学校施設開放運営協議会	会長 管理者	協議会の会長や管理者に対してヒアリングシートを配布し実施。
2 教育に関する施設・団体		
(1) 幼稚園	教員	私立幼稚園の教員に対して対面による聞き取りを実施。
(2) コミュニティ・スクール (学校運営協議会)・学校応援団	学校運営協議会委員等	学校運営協議会(会長・地域学校協働活動推進員)に対してヒアリングシートを配布し実施。
(3) 不登校支援に関する機関・団体	支援者等	不登校支援をしている方に対してヒアリングシートを配布し実施。
3 子育て・子育て支援に関する施設・団体		
(1) PTA・保護者の会	会長等	小学校及び中学校の会長等に対してヒアリングシートを配布し実施。
(2) 青少年育成会	会長等	会長等に対してヒアリングシートを配布し実施。
(3) 放課後カフェ	実施者	代表者に対してヒアリングシートを配布し実施。

施設・団体名	対象	方法
(4) 児童館・児童センター	職員	館長に対してヒアリングシートを配布し実施。
	利用者	当日来館している子どもに対して対面による聞き取りを実施。
(5) 学童クラブ	職員	指導員に対してヒアリングシートを配布し実施。
(6) 保育園	保育士	市立保育園の保育士に対してヒアリングシートを配布し実施。
(7) 図書館のおはなし会を実施している団体	実施者	代表者に対してヒアリングシートを配布し実施。
(8) 子ども食堂を運営している方	代表者	代表者に対してヒアリングシートを配布し実施。
4 特別な支援を必要とする子どもたちに関する団体・事業所		
(1) NPO法人西東京市多文化共生センター（NIMIC）子ども日本語教室	職員	職員に対してヒアリングシートを配布し実施。
(2) 就労継続支援事業所・就労移行支援事業所	職員	職員に対して対面による聞き取りを実施。
(3) 障害がある子どもの保護者団体	会長等	会長等に対して対面による聞き取りを実施。
5 その他		
青少年世代の方 (おおむね16歳から20歳までの方)	対象者	成人式実行委員会に対してヒアリングシートを配布し実施。児童センターの利用者（16歳から18歳）に対して対面による聞き取りを実施。

③ 主な調査結果

ア 社会教育に関する施設・団体

(a) 子どもの印象について

- ・ 行事や施設開放への参加人数が少なくなっている。
- ・ 自主的な行動、想像力が低下している一方で、子どもたちの身体スキルなどの上達は早いと感じる。

(b) 社会教育施設について

- ・ 本市の公民館は職員配置や機能が充実しており、利用団体が多い。
- ・ 土日に事業を開催しているので、土日に保育室を使いたい。
- ・ 学校施設も有効活用したい。

(c) 今後取組が必要なことについて

- ・ 遊び場開放のサポーターの確保が課題。
- ・ 成人指導者の育成と増強が必要。
- ・ 子どもに関する情報共有が必要。
- ・ 先生方にも放課後の子どもの姿を覗いていただくことが望ましい。
- ・ 自分たちの持っている技術を地域へ伝えていきたい。
- ・ 運営協議会が安定したメンバーで活動できるかも課題の1つ。

イ 教育に関する施設・団体

(a) 子どもやその保護者に感じることについて

- ・ 経済的格差や多様化した家庭価値観が課題。
- ・ 同世代の子どもを持つ親同士の交流があればと思う。
- ・ 療育や特別支援教育の理解が必要。
- ・ 地域での子育て支援、外国籍の保護者の支援が必要。
- ・ 子どもたちは色々なことにチャレンジしてみたい気持ちを持っている。

(b) 子ども自ら身に付けること・支援が必要なことについて

- ・ コロナ禍での子どもたちの実体験不足、安心して遊べる場所の不足が課題。
- ・ 学校や教育委員会との連携・協働で子どもたちの居場所づくりが必要。
- ・ 一人ひとりと正面から向き合うことが必要。また、親自身も悩み、孤立しており、保護者支援にも力を注いでいくことが不可欠。

(c) 地域で必要なことについて

- ・ 現役世代（現在学校に通っている児童・生徒の保護者）の地域における活動を期待する。
- ・ 新たな地域人材を活動につなげ、コーディネーターの支援をしていくことが求められる。
- ・ 高齢者や地域人材の活用、母親のメンター作りが必要。

ウ 子育て・子育て支援に関する施設・団体

(a) 子どもやその保護者に感じることについて

- ・ アレルギーを持つ子が増えていると感じる。
- ・ 習い事が多く、余裕がなく忙しそうである。
- ・ 家庭との関わりは薄くなってしまっている。
- ・ 遊びを知らず、経験していないことも多い。
- ・ 子どもたちには「生きる力」と同時に「つよいところ」も育ててほしい。
- ・ 経済格差、教育格差の連鎖がより一層大きくなっているように感じる。
- ・ 見守ってくれる大人の存在を必要としている子どもたちがいる。

(b) 学校に期待することについて

- ・ 就学前施設と小学校との連携をさらに充実させていく。
- ・ 少人数クラスでの指導をもっと検討して欲しい。
- ・ 不登校児童・生徒への対応をもっと幅広く進めていってほしい。
- ・ 支援を必要としている子どもたちや家庭が孤立してしまうことのないよう、積極的な情報発信、一歩踏み込んだ支援の必要性を感じる。
- ・ コロナ禍のため、学校での読み聞かせの機会が減少していることもあり、語りによって物語を耳から聴く機会をもう少し増やしたい。
- ・ おはなし会に限らず図書館で行っていることの学校や家庭への周知。

(c) 学校・家庭・地域の連携について

- ・ もっと地域との関わりの場を作り、子どもたちにも参加してもらえると良い。
- ・ 中高生の居場所が少ない。
- ・ 親でも先生でもない、いつでも相談ができる大人が傍にいと良い。

- ・ コミュニティ・スクールを活用し、教職員の負担を減らし、子どもたちに指導できる環境を作ることが望ましい。
- ・ 特別支援教室や通級などの指導を受けている生徒への偏見がまだあるように思う。
- ・ 誰もが一緒に学べる環境を整えることが、共生社会で生きていくための経験として必要ではないか。
- ・ 日常の関わりを通じて、顔の見える関係をつくる、深めることが必要。
- ・ 登下校の児童にとって危ない狭い道路があるように思う。

エ 特別な支援を必要とする子どもたちに関する団体・事業所

(a) 学校に期待することについて

- ・ 必要な情報提供をして本人が後々困らないようにしていかなければならない。
- ・ 本人が一人でできる力、本人ができない時に支援を求めることができる力をつけるよう支援していくことが重要である。
- ・ 全教員が特別支援教育について理解する必要がある。
- ・ 共生社会実現のため、全ての児童・生徒が多様性や共生社会について理解を深めることのできる授業を増やして欲しい。
- ・ インクルーシブ教育の推進や副籍交流、通常の学級内での(補助)教員による学習指導などをより充実させてほしい。

(b) 地域づくりについて

- ・ 多様な背景を持つ人たちがお互いを認め合い、関わり合いながら住みやすい地域づくりをしていくこと。

オ その他

- ・ 障害者への理解が少ない（そもそも関わる機会が少ない）。
- ・ NPOやボランティアグループが多くあり、子ども食堂や防災活動を行っているイメージがある。
- ・ 学び続けることは社会人になっても成長することができる良い機会だと感じる。

ヒアリング調査結果からみられる課題

- 本市の公民館は、市民の学びの活動が盛んで、需要が高く、時間帯や曜日によって部屋の確保が困難となっています。そのため、他施設の活用も視野に入れ、市民主体の学びの継続について検討が必要です。
- 子どもやその保護者に感じることで、経済的な格差や多様化した家庭価値観があります。同世代の子どもを持つ親同士の交流や療育・特別支援教育の理解促進が必要です。また、コロナ禍も影響し、子どもたちの実体験不足や、安心して遊べる場所の不足が課題となっています。リアルとデジタルの融合による教育活動や体験活動の機会を充実していくことが必要です。
- 地域で必要なこととして、新たな地域人材を活動につなげること、高齢者や地域人材の活用、母親のメンター作り等の意見がありました。学校や教育委員会との連携・協働で子どもたちの居場所づくりが必要であり、一人ひとりと正面から向き合うことが必要です。また、孤立しがちで悩みを抱える親もあり、親同士のつながりを育てる機会や、親子で共に喜びを分かち合える場を提供するなど、保護者支援にも力を注いでいくことが必要です。
- 子育て・子育て支援を行う団体や特別な支援を必要とする子どもたちに関する団体等からは、共生社会実現のため、お互いに理解し、関わりあうことの大切さについて意見がありました。多様性や共生社会について理解を深めていくことが必要です。
- 学校に期待することについて、少人数クラスの導入や不登校児童・生徒への対応の充実などの意見がありました。学校・家庭・地域の連携・協働による組織的・継続的な仕組みの構築を進め、地域ぐるみで子どもたちがより良い環境で育てられる条件整備が必要です。また、経済格差や教育格差の問題、支援を必要とする子どもたちや家庭の孤立を防ぐための情報発信や支援の充実も必要です。

(4) 子どもワークショップの概要

① 目的

本市では、まち全体で子どもの育ちを支えていくことを目的として、「西東京市子ども条例」を制定しました。また、次世代を担う子どもたちのため、「子どもが『ど真ん中』のまちづくり」も進めています。本計画策定を契機に、子どもたちの意見や想いを把握するために、市立小・中学校2校ずつ（計4校）で、子どもが自主的に意見を整理・発表するワークショップを実施しました。



子どもワークショップの様子

② 対象・内容

令和5年2月から3月にかけて、以下の学校を対象に実施しました。

実施日	学校名	対象
令和5年2月7日	東小学校	小学5年生 2クラス 59名
令和5年2月14日	柳沢中学校	中学1年生 3クラス 79名
令和5年2月16日	芝久保小学校	小学5年生 3クラス 74名
令和5年3月9日	田無第二中学校	中学1年生 4クラス 104名

ワークショップでは、5から6名程度のグループに分かれ、それぞれのグループで4つの設問に対する意見を出す形式をとりました。出された意見は、付箋に書いたワードを模造紙に貼って整理したのち、グループの代表が発表を行いました。

設問は、以下の4項目です（カッコ内が実際の設問文）。③については、未来の西東京市の学校・まちを表す「キーワード」を回答していただきました。また、④では、未来の西東京市の学校・まちを実現するために必要なことを「子どもたちの姿」「周りの大人の姿」「学校や先生の姿」に分けて考えていただきました。

設問①：西東京市の良いところ・誇れるところ（西東京市のココがいい！）

設問②：将来的な西東京市の状況（20年先、西東京市はどうなっているか？）

設問③：望ましい未来の西東京市の学校・まち

（西東京市の20年後にはこうなっていたい！！－1）

設問④：望ましい未来の西東京市の学校・まちを実現するために必要なこと

（西東京市の20年後にはこうなっていたい！！－2）

③ 主な意見

ア 設問①：西東京市の良いところ・誇れるところ

(a) 自然環境について

- ・公園に緑（植物）が多い。
- ・文理台公園や碧山森など、自然が豊かなところがたくさんある。

(b) 地域について

- ・地域の人たちは優しい！楽しいイベントを考えてくれている！

(c) 安全・安心について

- ・優しいボランティアで、小学生などの安全を見守ってくれている人がいる。

イ 設問②：20年先、西東京市はどうなっているか？

(a) 自然環境について

- ・地球温暖化が進む。
- ・自然の緑が少なくなる。
- ・ゴミが増える。
- ・環境破壊が進む。

(b) 最先端技術について

- ・タブレットを使った授業が増える。
- ・オンライン授業が当たり前。
- ・勉強を教えてくれるのが先生じゃなく、ロボットが教えてくれるようになる。

ウ 設問③：西東京市の20年後にはこうなっていたい！！

－西東京市の学校や地域がこうなっていたい！

(a) 最先端技術をいかした学校・まちについて

- ・機械と共存する新時代
- ・機械化が進む学校
- ・デジタルを生かした授業をしている学校

(b) 自由な学校・まちについて

- ・子どもたちが自分の好きなことを安心して学び、生活できる学校
- ・誰もが自由に学べる学校

(c) 平等で包摂的な学校・まちについて

- ・色んな人の意見を反映している西東京市
- ・皆の個性が認められる学校！
- ・どんな人にも優しくできるまち

(d) 人々の仲が良い学校・まちについて

- ・みんなが元気でなかよしで楽しい学校や生活
- ・愛と勇気と希望と友だちが満ちあふれる！

(e) 元気と笑顔あふれる学校・まちについて

- ・やさしく、笑顔いっぱいの学校
- ・世界で一番笑顔ある西東京市

エ 設問④：望ましい未来の西東京市の学校・まちを実現するために必要なこと

－西東京市の20年後にはこうなっていたい！

【子どもたちの姿】

(a) 勉学や体験などに基づく自己研鑽について

- ・植物の育て方を勉強する。
- ・「読書」が必要！
- ・勉強の効率を高める。
- ・授業に興味を持つ。
- ・インターネットの使い方を覚える。

(b) 差別やいじめについて

- ・差別などのない世界をつくるにはどうしたらいいかを学ぶ。
- ・いじめをなくす。
- ・一人ひとりの意見を尊重する。

(c) 交流について

- ・相手の気持ちを考える（考えてからしゃべる）。
- ・最低限のマナーは守れるようにする。
- ・外の世界にもっとふれ合う。
- ・挨拶ができている。

(d) 生活について

- ・笑顔いっぱい自由に行うことができる子どもにする。

【周りの大人・先生や学校の姿】

(a) 人材育成・教育環境の改善について

- ・子どもが深い学びをするために市が定めた教育方針にそって先生がしっかり教える。
- ・教科を増やし、子どもたちの可能性を広げる。

(b) 技術の導入について

- ・人工知能の研究成功
- ・デジタル教育を積極的に取り入れる。

(c) 環境問題について

- ・木などを植え、自然を増やす活動をする。

- ・環境に優しいまちを考えている。

(d) 子どもの尊重について

- ・生徒の考えを尊重し生徒自身で考え、計画し、行動することを目標としている学校
- ・子どもの相談にのれる存在になる。
- ・子どもの意見を尊重 ・子どもの夢を守れるようにする。

(e) 交流の促進について

- ・学校で地域との関わり合いの機会をつくる。
- ・地域の活動に参加する。
- ・お互いを尊重するために他国の人との交流をする。

ワークショップ結果からみられる課題

- 本市のよいところについては、自然環境（緑や農作物）が豊かと感じている子ども、地域住民に優しい印象を持っている子どもが多くなっているほか、学校の先生や授業に好意的な意見もみられました。いわゆる「持続可能な開発」のための教育の充実を図ることや、教育課程の中に地域住民との関わりを導入することなどが効果的であると考えられます。
- 20年後の未来予想については、ロボット、オンラインなどAIやICTに関連した未来の技術革新を予測している意見が多くみられました。一方、少子高齢化などの人口問題や環境破壊、平和に関する問題を心配する意見も多くみられました。また、20年後の学校や地域がどうなってほしいかについて、「デジタル化を活かす」や「機械と共存」といった意見がみられたほか、「自然」や「緑豊か」「自由」「仲良し」「元気」「笑顔」といった意見も多くみられました。デジタル革新に関する高い関心がみられることから、学校教育におけるDXの推進などが受け入れられる土壌ができていると考えられます。
- 理想の20年後になるために必要なこととして、【子どもたちの姿】としては、授業における勉強や社会性の勉強、読書といった意見や、交流や差別解消などコミュニケーションに関する意見がみられました。【周りの大人・先生や学校の姿】としては、人材育成・デジタル教育といった学校の教育環境に関する意見や、環境問題や仕事・経済などの社会問題に関する意見がみられました。子どもたち自身から「豊かな心」を目指そうとする方向性が出されていることや、学校の教育体制の充実や学校教育におけるDXが必要と考えていることが読み取れます。